

多様な主体の連携による生物多様性 保全活動の意義



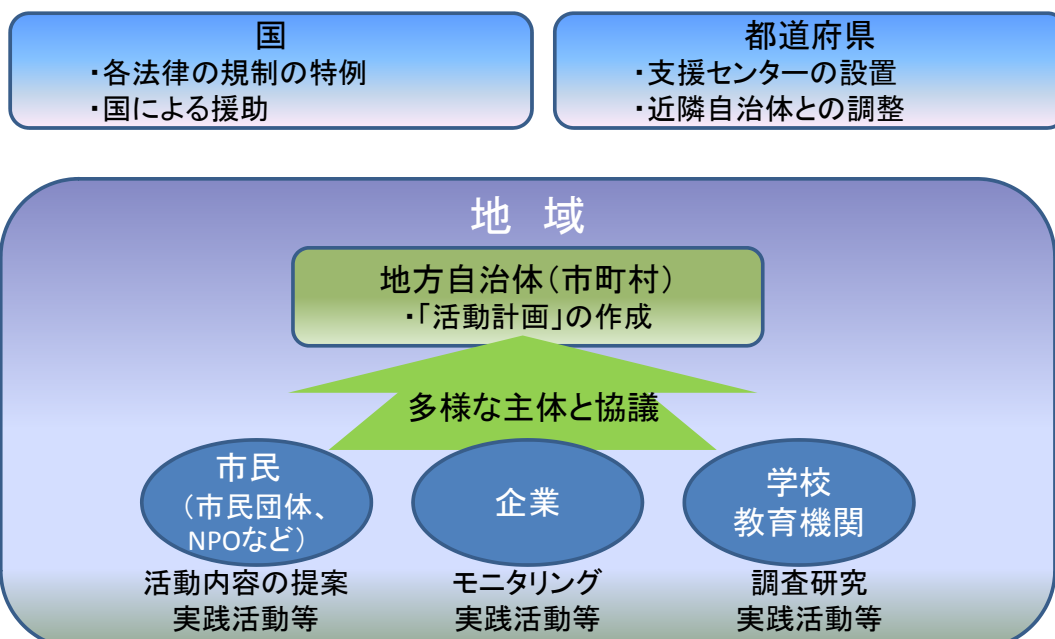
竹田純一 農山村支援センター事務局長 内閣官房地域活性化伝道師
森里川海生業研究所共同代表(里分野) 里地ネットワーク事務局長
東京農業大学学術研究員 中央大学兼任講師

生物多様性保全活動促進法における役割

目的 **地域**の**多様な主体**が**連携**して**生物多様性保全活動**を**促進**し、生物多様性を保全

内容 市町村が「活動計画」を作成すること「活動計画」には保全活動の区域、目標、
実施主体、実施場所、実施時期、実施 方法等を具体的に定めること

生物多様性・・・いきもの 保全活動・・・①汗をかく活動、②調査・モニタリング、③ふれあい



都市と里地里山

1 都市における課題

企業・学校における心の癒し、ふるさとづくり

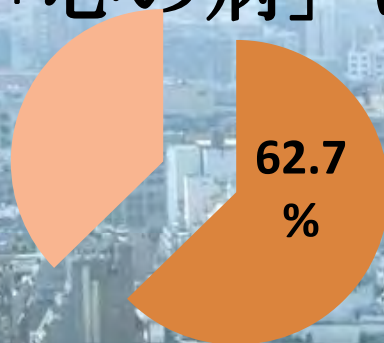
2 里地里山における課題

閉鎖へと向かう集落予測

3 マッチングのシナリオ

4 新たなコモンズ

「心の病」に効くクスリ？



企業で「心の病」が増加し、62.7%の企業で1ヶ月以上の休職者がいるという結果が出ている。(2008年「労務行政研究所」調査)

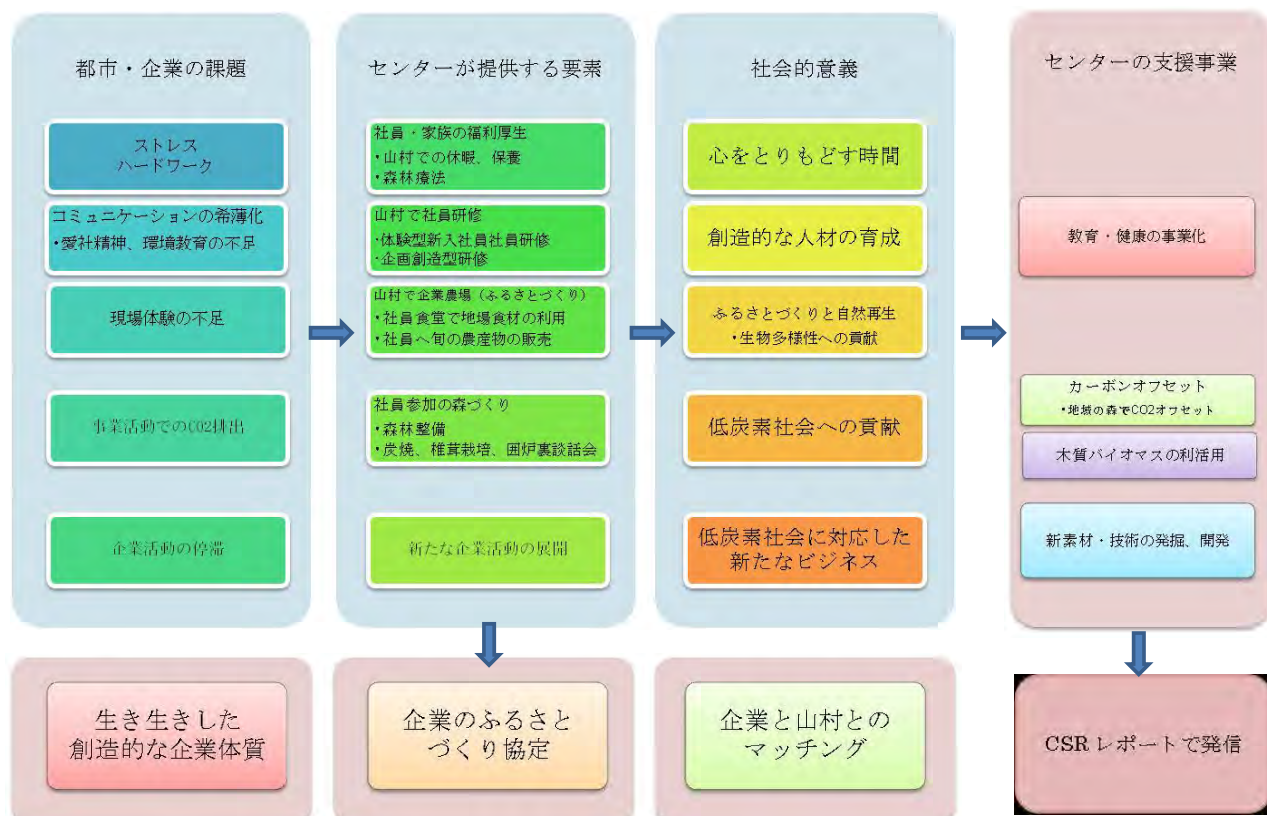
新入社員の3割が、3年以内に離職しています。

業種によっては、4～5割です。

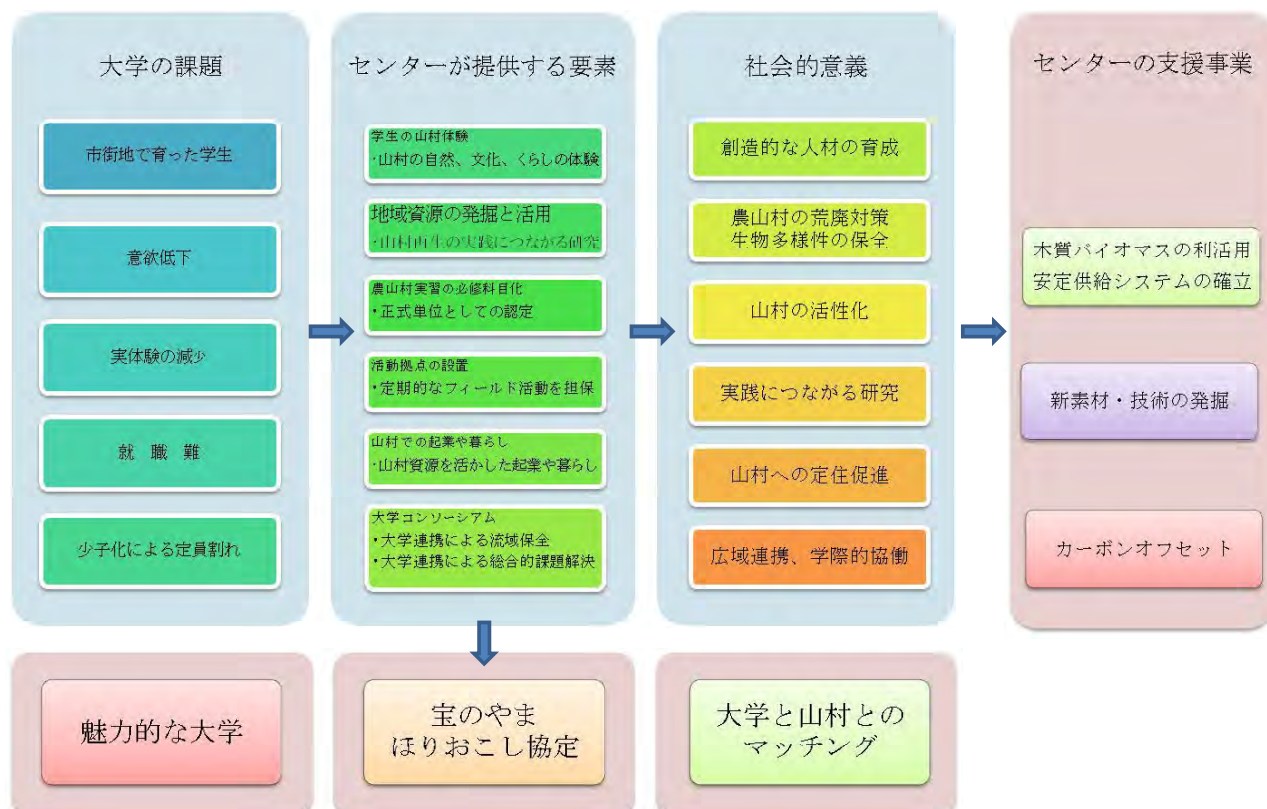
文部科学省はh24年12月24日発表

うつなど心の病で11年度中に休職した教員は5274人

都市における課題 →「企業のふるさとづくり」協定！



都市における課題→「大学・宝のやま 掘りおこし」協定！



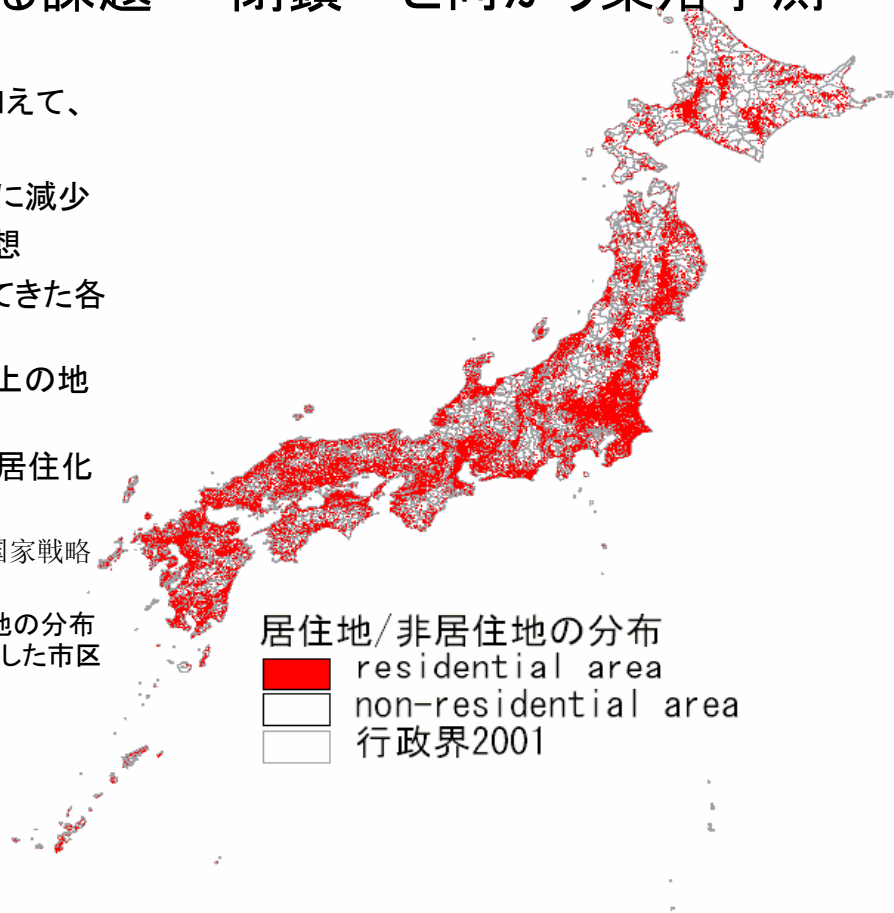
里地里山における課題 閉鎖へと向かう集落予測

過疎高齢化、鳥獣被害に加えて、

- 人口は2004 年をピークに減少
- 減少ペースの加速も予想
- 地域コミュニティを支えてきた各種基盤は弱体化
- 2050 年、全国の6 割以上の地点で人口は半減
- 居住地域の21.6%が無居住化すると予測

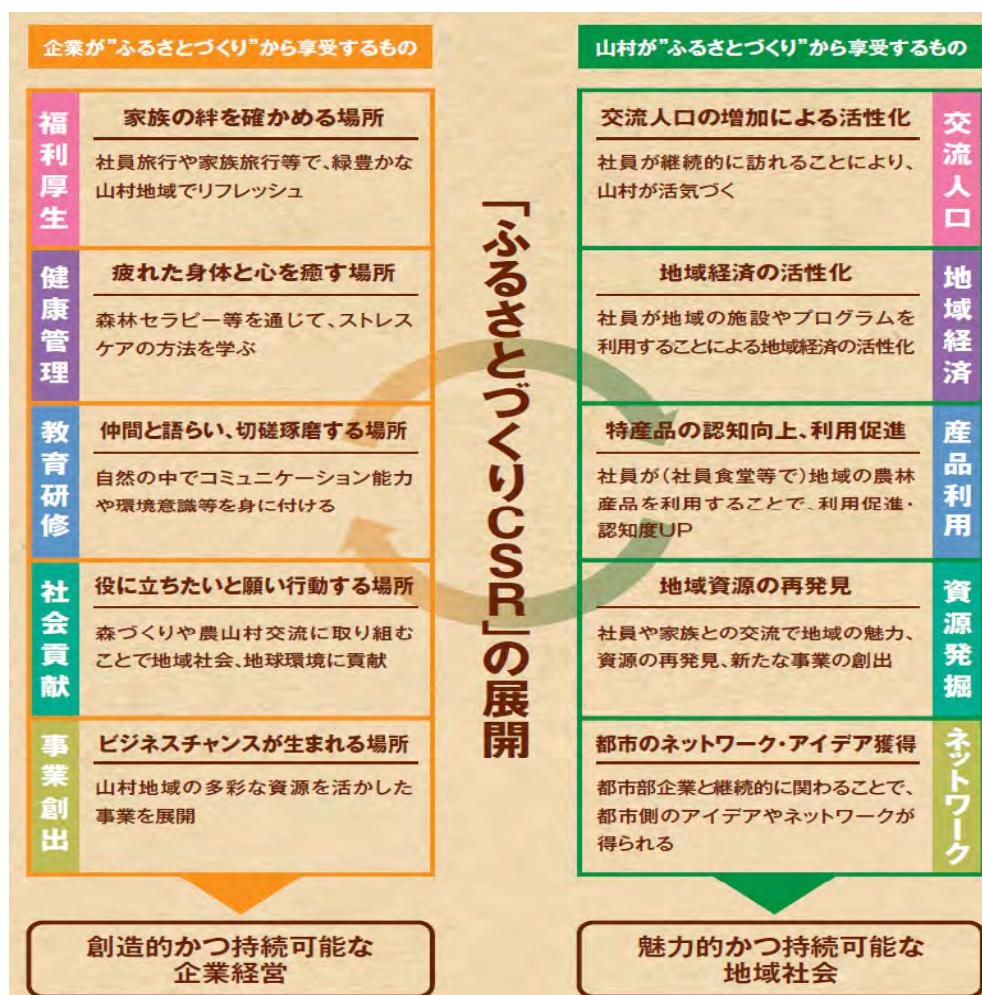
(上記:平成23年7月内閣官房国家戦略室)

(右図出展):日本における居住地の分布と地形との関係ーGISを利用した市区町村単位の検討ー2005



居住地/非居住地の分布
 ■ residential area
 □ non-residential area
 行政界2001

マッチング シナリオ



新たなコモンズの模索

コモンズ 草原を広範囲に移動する遊牧民が自由に利用できる放牧地

- ・ 誰の所有にも属さない放牧地
- ・ 入会(和訳)は特定集団によって所有・管理されている点で異なる。

入会権とは、村落共同体等が、一定の主として山林原野において土地を総有などし、伐木、採草、キノコ狩りのなどの共同利用を行う慣習的な物権であり、民法が定める用益物権である。

- ・ 入会権が設定された土地のことを入会地という。
- ・ 入会権を持つ村落共同体を入会団体といい、入会団体の所有形態を権利能力なき社団と同じ総有であるとしている
- ・ 入会団体の殆どは、権利能力なき社団うちの「代表者の定めのない権利能力なき社団」である。

ローカル・コモンズの特徴 地域コミュニティの集団が利用する共有地や共有資源を対象として

- ・ 自由にアクセスできる自由財ではなく、地域コミュニティ構成員に限って利用できる
- ・ 収奪的利用が抑制されている

ローカル・コモンズの特徴 地域コミュニティの集団が実質的に所有

- ・ 共同事業として現地住民が相互利益に配慮しながら管理
- ・ アクセスが、地域コミュニティの構成員に限定

新たなコモンズの可能性 地域コミュニティで利用・管理できなくなった入会地等を対象

- ・ 都市住民をはじめとした多様な主体の連携・協働を通じた、新たな利用・管理形態を創出
- ・ アクセスは、地域コミュニティの構成員の合意を得て、前記構成員以外に拡大
- ・ 利用管理により、生物多様性の保全、生態系サービスの向上、自然の恵みを継続

生物多様性地域連携活動

3-1 北海道栗山町

「童話の風景を再現する里山づくり」

3-2 神奈川県秦野市

「40団体による保全活動の展開」

3-3 福井県越前市

「アベサンショウウオとコウノトリの里づくり」

3-4 福井県小浜市「高校生によるアマモ場再生」

3-5 鹿児島県姶良市「干潟の小さな博物館」

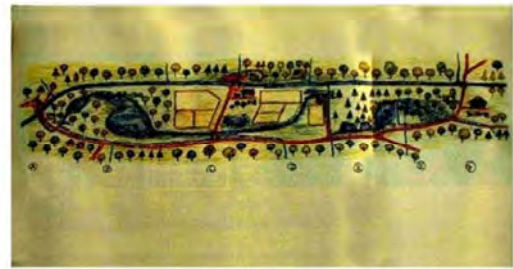
北海道栗山町「童話の風景を再現する里山づくり」

離農地再生計画を絵で表す～ただ放置しないで谷津田の風景を再現しよう

意見を取りまとめ再生計画案を
図案化する



童謡の風景を再び



夏

川の学習・水辺の生きのもしらべ(上流域)



神奈川県秦野市「40団体による保全活動の展開」



福井県越前市「アベサンショウウオとコウノトリの里づくり」



地域戦略 [予定表]

1. 希少な野生生物が生息する自然環境の保全

基本 ○希少野生生物の保護、生育生息地の確保のため、湧水から河川に至る多様な水辺環境とその連続性を維持保全する。
方針 ○希少野生生物保全指導員と地元活動団体を、地元住民が主体となった保全・管理組織を確立する。

	関係主体	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降
1-1 希少野生生物等の調査と保全 [p.16]	希少野生生物保全推進員によるモニタリング、生態地監視、解任管理 ・研究機関との協働による調査研究 ・さき草やメダカ等希少生物の保護、生育生息地保全	アベサンショウウオ等希少野生生物等のモニタリング・監視・生態地維持管理[p.16] 希少野生生物保全推進員養成研修 福井県農業試験場による調査の実施[p.17] 福井大学に上る調査(継続) さき草王国によるさき草採集観察、メダカ連絡会・古川漁業会に上るメダカ保護活動等(継続)			奥岳グリーンロード一帯管理等協議体制の検討
1-2 水辺の生態系の保全再生 [p.18]	水環境、しらやま保樹会、おらの池づくり委員会、おのりっぴー交流センターなど ・市町村の環境性(木部森やネットワーク)の確保 ・外來種対策	各流域での生物調査・水辺の生態系保全活動[p.18] 農地・水産・環境全向上対策 資源保全モデル地区づくり[p.19] 新での実行的な生態系保全活動[p.20] く農村重視・自然環境保全再生パイロット事業の活用(毎年実施中) コウノトリと共生できる地域づくりを目指して[p.21]		各県境での水山の生態系保全活動 く農地・水産環境全向上施策実証事業(共同計画への文庫)の活用>	
1-3 里山の保全 [p.22]	山手地区の環境整備 ・水田に隣接する路の景観整備	除け刈の実施[p.22] く里山エリア再生交付金の活用< 道の森事業による市民と協働の里山保全活動[p.23]			

2. 希少な野生生物の保全を付加価値とした商品や仕事づくり

基本方針 ○ 環境保全型農業を推進し、コウノトリの飛来するような生態系豊かな農村環境をつくる。
○ 生物多様性の保全と経済性の確保の両立を日進月新

	関係主体	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降
2-1 環境保全型農業の推進 [p.24]	農産部・農協 山形県作業者組合 全農山形県農協組合 農業者生活改善委員会	環境保全型農業研修の実施 [a24] 「環境補助型農業ふくもくモデル推進事業（環境エコ集団育成支援事業）」の 実施 [実業家集落委員会] [a25] 減農薬・減化学肥料など環境負荷低減の取組み（白山農産部エコファーマー認定取得） [p.25] 農地・水・環境保全向上活動支援事業（実業活動への支援）の活用 多水・排水たんば等、より生態に配慮した農法への取組み			
2-2 農産物のブランド化 [p.27]	白山農産部 山形県生産者会 全農山形県農協組合 全農 山形県工芸	農産物のブランド化 （白山産品群「しらやぶ」登録申請） [p.27]	「しらやぶ産品」ブランド登録の 取組 ブランド米の栽培基準、ブランド 改善の検討	広報の強化 基準にふさわしい生産体制の確立	販路拡大の確保 産地・加工・輸出 の検討
2-3 地場産品の発展・活用 [p.28]	全農山形県交流センター しらやぶ農産部 うしろの組づくり推進 会 山形県産品、加工品 の活用	山形の食料、観光資源等の調査 活用方法の検討（交流活動での提供、郷土料理づくりの 体験メニュー化等）	山形の食料、観光資源等の 調査 山形県産品、加工品 の活用	交流活動での提供や体験メ ニュー化 販路拡大の確保方法の検討	

3. 環境学習と自然体験活動

基本 ○ 将来の地域の担い手である子どもたちに、環境学習や自然体験活動を通して、地域の自然や文化の価値を伝えていく。

「3-1 小中学校での環境学習・自然体験活動の推進」【p.29】 ・総合学習の時間、教科学習の一環として実施 ・青少年生物保全指導員等、地元指導者の活用					関係団体	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降
・総合学習の時間、教科学習の一環として実施 ・青少年生物保全指導員等、地元指導者の活用					白山小中学校、武生東小中学校 黒川小中学校、武生二小中学校	小中学校総合学習等での星城山環境学習の実施【p.29-31】			
3-2 地域文化への普及啓発 【p.32】 ・自然や文化遺産の再発見・地図作成（東地蔵院跡） ・地域住民を対象とした星城山学習の実施					しやま里親会 しららの町づくり促進会 エコビレッジ交流センター	エコビレッジ交流センターや自治会等において各種講座、催し（継続）			
								星城山探検の実施	

4. 地域外の人との交流と協働

基本 ○ 里地里山の多様な価値を活かし、都市住民や消費者との交流により活性化を図り、経済性を確保する（コミュニティビジネス化）。
方針 ○ 県と市西部地域の里地里山の価値を認め、都市住民や消費者が、自然体験活動に参加し、滞在活動の手段とする。

4-1 エコ/グリーンツーリズムの推進 [p.37]	関係主体	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降
・地元組織によるエコ/グリーンツーリズムの実施 ・青年型登山体験の推進 ・自然観察マップ、体験ガイドマップの作成 ・受入れ・運営組織の育成	しらやま夏葉舎 くららの町づくり委員会 コロビッジ交流センター	しらやまエコキャンプの実施【p.33】	しらやまエコキャンプの継続(しらやま支部会による自主運営) 青年型登山体験のメニューの選出し、 滞在者受け入れ体制	青年型登山体験の実施	
4-2 地域外の人との協働による自然再生活動 [p.38] ・市民ボランティアとの協働 ・高校、高等、大学等との連携	道の駅高瀬、エコピラミッド交流センター しらやま夏葉舎、くららの町づくり委員会、緑の学校、 県立工業高等専門学校、広島大学	緑の森遊学による市民と協働の登山保存活動【p.22】 しらやま夏葉舎、くららの町づくり委員会、緑の学校 赤羽の生態系再生活動に3校の大学や高校機関との協働(緑校) エコピラミッド事業に向けた参加校・大学等との協働(緑校)			
4-3 拠点の活用 [p.38] ・田舎寛容分枝の活用計画の検討 ・エコピラミッド交流センターの活用	緑の森、しらやま夏葉舎 田舎寛容、エコピラミッド交流センター	田舎寛容分枝としらやまエコキャンプの拠点として活用(緑校) エコピラミッド交流センターの活用(緑校)	田舎寛容分枝、調査研究拠点機能を含む年間活用計画・施設管理体制等の検討		
4-4 情報発信 [p.37] ・ホームページの開設・運営 ・展示会や発表会等での活動紹介 ・各団体の広報等による情報発信	水辺と生き物を守る農家と市民の会 (各団体の連絡組織)	ホームページの開設【p.37】	情報収集、ホームページ管理体制の検討		

5. 人材の育成

基本 ○ 地元住民が、生物多様性などの価値を認識し、保全活用の主体になるための知識と技能を身に付ける。

平成16年度		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降
5-1 青少年生物多様性指導員の養成 [p.38] ・専門家による定型的な研修 ・青少年生物のモニタリング、監視、生態系維持管理の実施 ・体験活動等の指導の実施	福井県、福井市 青少年生物多様性指導員	青少年生物多様性指導員養成事業 [p.16] 第1期 H17～18	伊賀シンクワフサワの青少年生物多様性のモニタリング・監視・生態系維持管理 第2期 H19～20			福原グリーンセンターカーボナート研究所緑地の 緑地の維持
5-2 自然体験・環境学習指導者の発掘と活用 [p.39] ・生活文化等の伝承者、自然体験指導者等の登壇（達人バンク） ・体験活動等での体験指導の実施		じやま組運動会、うちもの町づくり運動 会、エコビレッジ交流センター の実施、エコビレッジ	人材の発掘 エコビレッジ交流センター「高山テーマパーク」における体験活動の指導（継続）	人材の発掘 本郷川（南入彦シタ）		体験活動等の指導実施

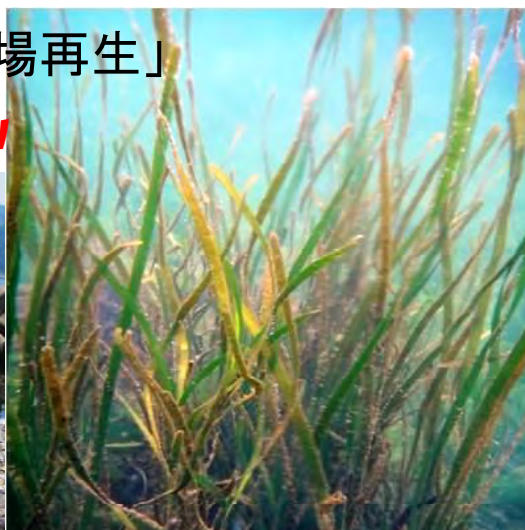
6. 推進体制の構築

基本 ①主体間の協議の場と協力体制をつくり、諸活動を推進・継続する。

方針① 自然文化や事業等々の受け手を確保、地域として継続活動を必要とした推進できるようにする。					
6-1 推進組織「水辺と生き物を守る農家と市民の会」	関与主体	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降
・海浜朝顔の事業費の推進 ・協議会、運営会議の開催 ・マーマーランドの活用 ・事業主体として環境整備の実施	青字野生生物保護協議会、青森県漁協、環境庁、県協賛事業団 小中学校、農業者、行政等	「水辺と生き物を守る農家と市民の会」[p.40]		協議会、運営会議の開催 活動動向における関係者の連携	活動方針を所定した事業展開

福井県小浜市「高校生によるアマモ場再生」

海底清掃/苗の定植 **きれいな海に潜りたい!**



鹿児島県始良市 **もういちど、泳げる海に!** 「干潟の小さな博物館」



錦江湾について (鹿児島湾の通称)



①エリア
鹿児島湾は南北約80km、東西約20kmの細長く入り込んだ内湾で、桜島以北の湾奥と南部の湾中央、湾入口の湾口部に分けられます。

②水深断面図

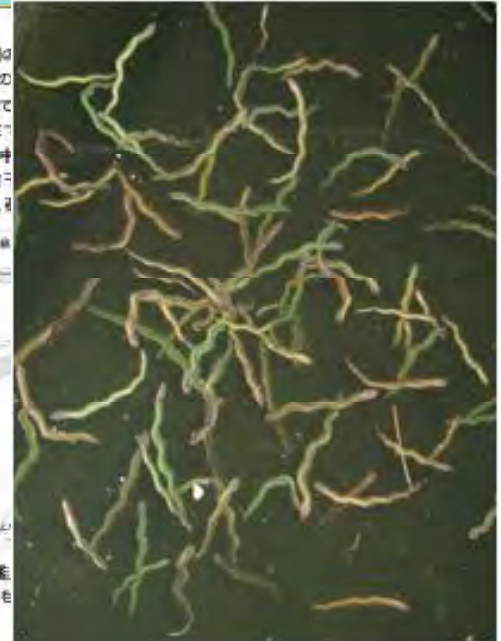
鹿児島湾は大昔、火山だったため、海底は深いすり鉢のような形をしています。その平均水深は117m、最大水深は237mです。



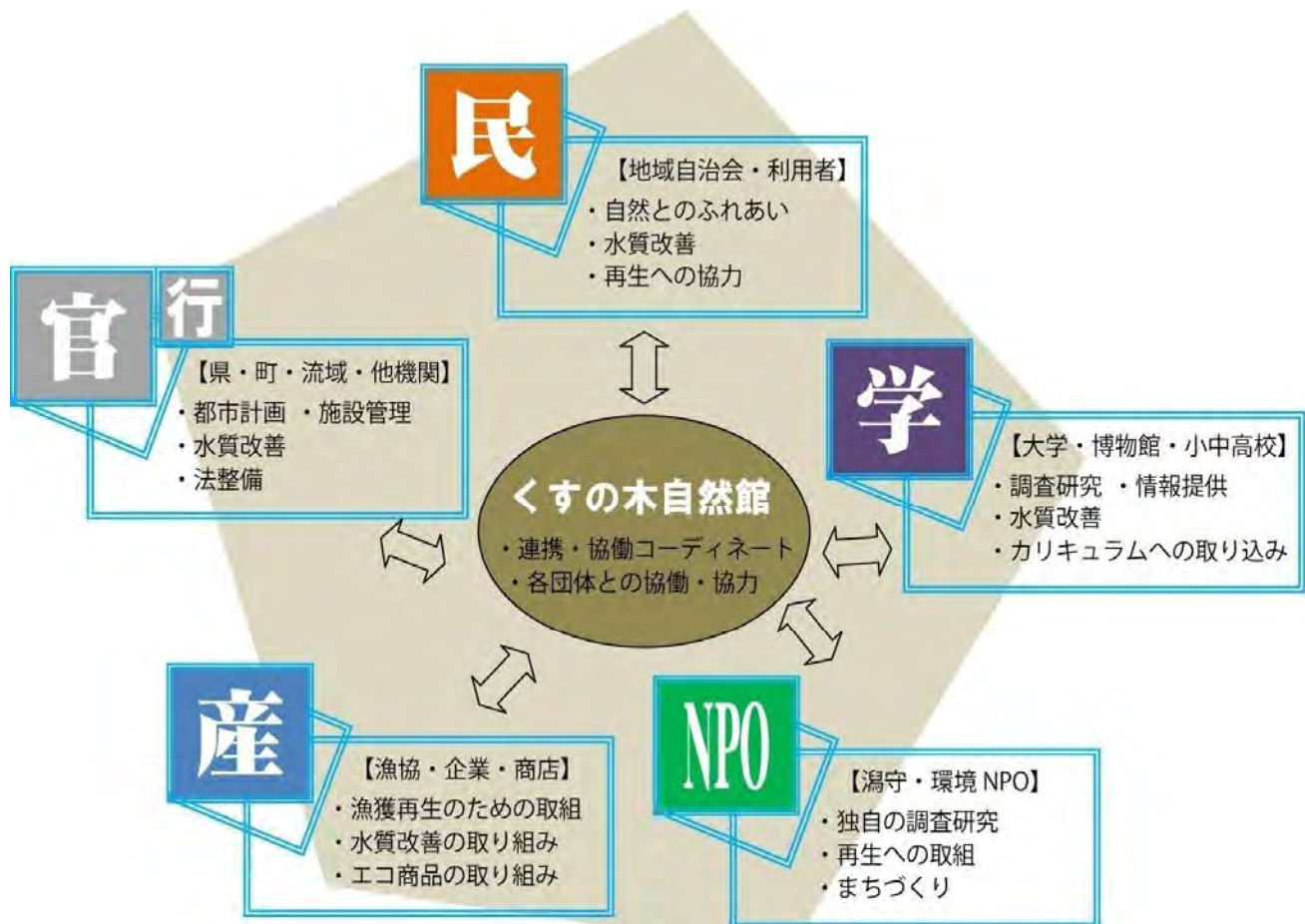
重富干潟とは



全国で多くのわねで現在その中重富干潟のみ



4ページからの「いきもの図鑑」をみましょう。たくさんのいきもの



連携促進技法

4-1 地元学による多様な主体による地域資源調査 「地域資源調査・あるもの探し」

4-2 野生生物の種に着目した保全再生・活用計画

4-3 研修会によるきっかけづくり

地元学による多様な主体による地域資源調査

里地たんけん隊

タイトル: であろはさかご キーワード: 稲虫

それについて
地元の人に
聞いたこと
地元の人

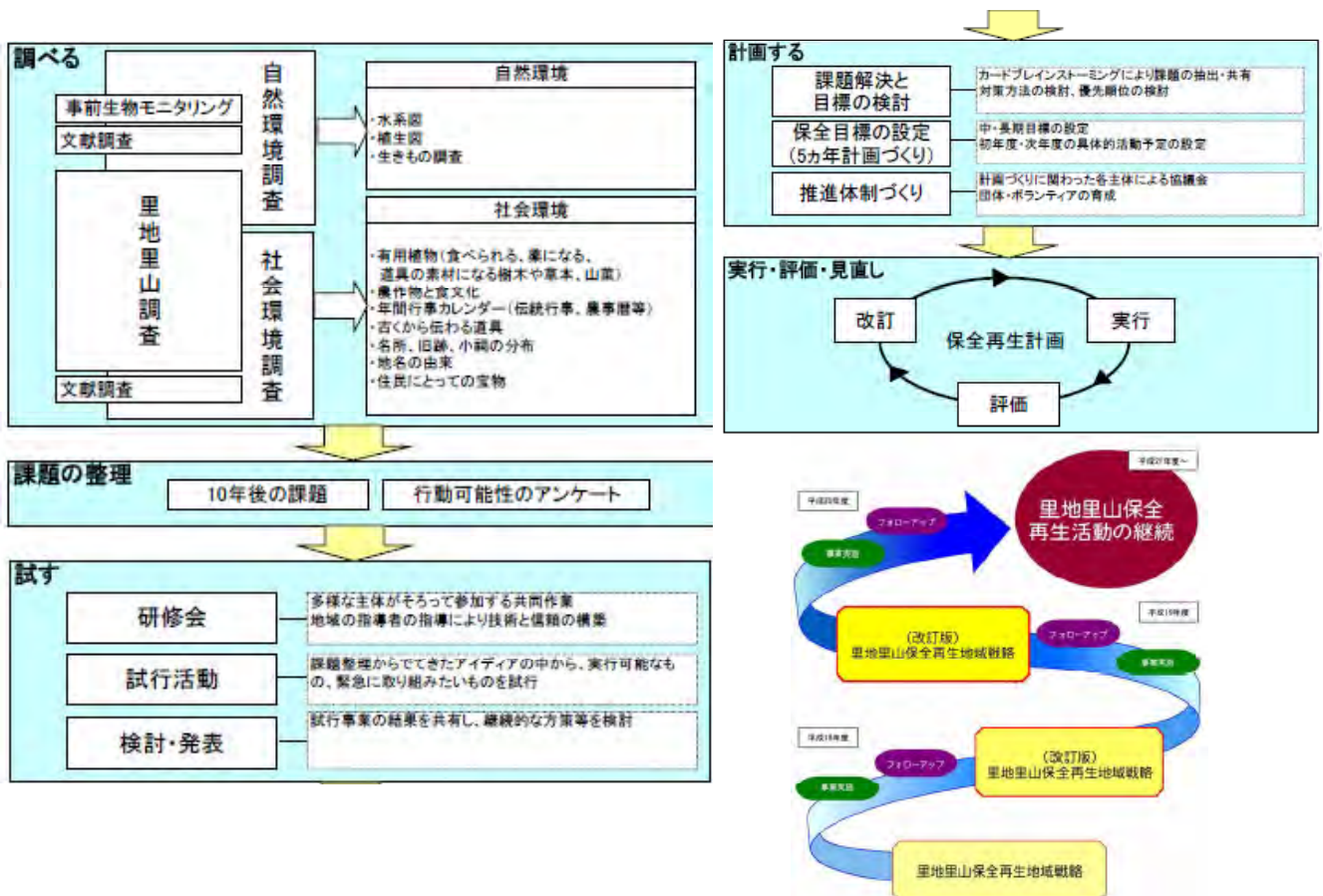
稲の苗についた、デコ(泥)がついた虫を取る。稲の
泥がついた虫が葉につく。心を残して食
虫が取れる。農薬より手間がかかる

地図のめりかたの一例

調査地域の集水域	△---△---△---
湧水	●
水源(川)	●
ため池、砂防堰	●
農業用水	---
水路のコンクリート化	---水路の左右に記入
排水水道	---
井戸	●
雑生	針葉樹 広葉樹口(塗らない) 竹林
田んぼ	耕作 耕作していない
果樹	果樹 作物名
稲	大蔵/キウリ 作物名と、年間作物 カレンダー
自然神、山神、海神、野仏	无
生き物	地図上に記入(オニシ、カウニナ、ドジョウ、カエル、 ムジナの足跡、オコヤンゴ、サンゴロウ)
集落と道	集落、食べられる植物を採って地図 に書き込み、資源カードを作成
道具	調査道具、録音道具、加工する道具、 貯る道具 等を調べ資源カードを作成



野生生物の種に着目した保全・再生・活用計画

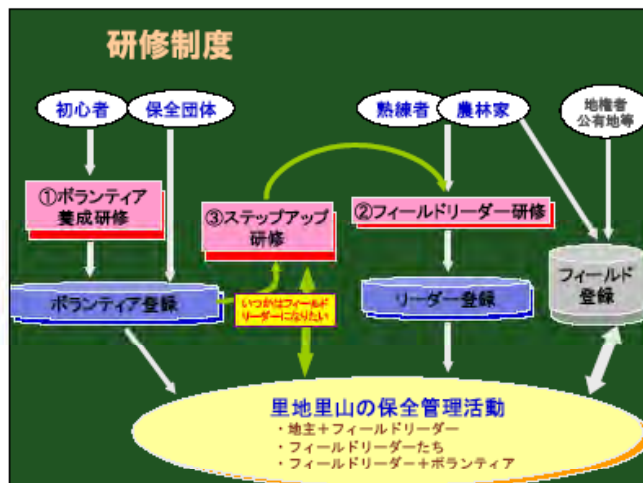


研修会によるきっかけづくり

5. 人材の育成

5-1 希少野生生物保全指導員の養成

趣旨	地元住民が希少野生生物や地域の生態系を保全するための知識と技術を身につけ、日常的な保全管理にあたり、里地里山の保全活動の主体となることを目指す。地域住民から「希少野生生物保全指導員」を各集落2人程度養成し、希少野生生物のモニタリング、不法採取等の監視、生息環境の維持管理を行う。				
内容	希少野生生物保全指導員を、全32集落から、17～18年度に各1～2名（現在33名）、19～20年度でさらに22名養成する。 ・専門家による定期的な研修 定期的に専門家（越前市希少野生生物保護専門員）の指導を受け、アベサシショウウオ等希少野生生物の生態、調査方法、生息地の管理方法等を学ぶ。 ・希少野生生物のモニタリング、監視、生息地維持管理の実施 各自、自分の集落付近の2ヵ所程度を担当し、月2回のモニタリングと不法採取等の監視、年2回以上の生息地維持管理作業を行う。 ・体験活動等の指導の実施 小中学校の環境学習やエコリズム実施時に生物の解説やビオトープ作り等保全活動の指導を行なう。				
関係主体	福井県、越前市、希少野生生物保全指導員				
スケジュール	～H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度以降
	希少野生生物保全指導員養成事業【p.16参照】 （アベサシショウウオ等希少野生生物等のモニタリング・監視・生息地維持管理） 第1期 H17～18 第2期 H19～20				鳥獣ダミー設置等一年度等継続体制の検討
事業イメージ					



森里川海の自然再生をめざして

5-1 里山の保全活動

5-2 河川、水路、水辺の保全活動

5-3 干潟、海辺の保全活動

5-4 森里川海をつなげる自然再生活動

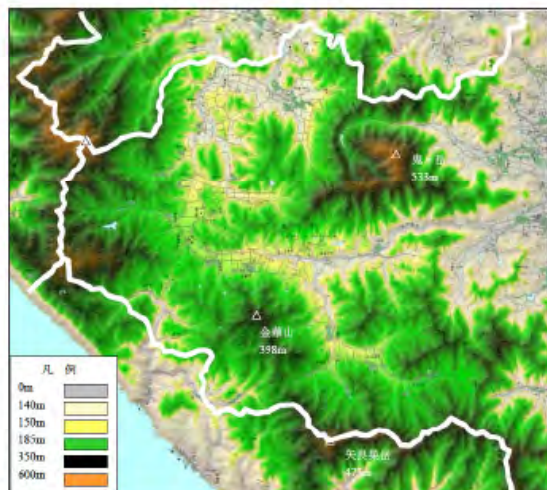
里山の保全活動

越前地域の特性 1 自然環境の概要

越前地域は、南条山地・丹生山地と武生盆地の間、標高 150m 地点にある約 50k m² の小盆地です。この小盆地は、鬼ヶ岳 (523m)、若狭岳 (564m)、矢野岳 (473m)、金嶺山 (398m) 等の山を除いては、低地 100~140m・頂部 250~350m のなだらかな丘陵地形を呈しています。

丘陵は主にコナラ等の広葉樹林に覆われており、二つの河川の水源となる湧水が丘陵を刻み、無数の小さな谷を形成しています。広葉樹林に覆われた湧水は谷に開かれた水田を潤し、さらに低地の水田を潤して川へと注いでいます。

このように、複雑な地形が土地利用に反映されるとともに、地域一帯が水源地域となっており、集水域の大きさに照らして比較的豊富な水を送り出しています。



越前地域の特性 2 地形・地質

●なだらかな丘陵と無数の開析谷

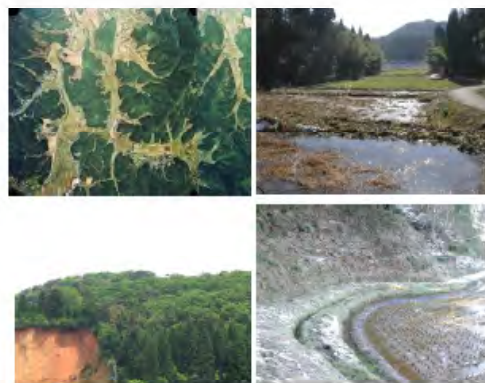
越前地域は、標高 100~300m 程度の丘陵と開析谷、谷底低地で形成されています。九頭竜川水系の二つの河川の源流域となっており、湧水により小さな谷が無数に刻まれ複雑な地形を形成しています。二次林と水田の混在性が高く、それぞれの谷には里山と水辺のニートン（移行帯）が形成されるなど、環境の多様性が非常に高く、生物多様性を高める要因となっています。

●緻密な土質

土質は全般的に緻密で粘質が高く、下記のような特徴が見られます。
・山地丘陵上部：上層の腐植層が薄く、下層は緻密で粘質が高い。鉄分を含む赤土層がある。

・山麓部：上層は崩落土により比較的腐植に富むが、下層は堅く緻密。

・谷底低地：水田土壌の中でも特に細粒で粘質が高い。保水性が高く崩れにくい。このような土質から、雨水がゆっくりと浸透し、豊富な湧水により潤くても安定した水辺が形成される要因となっています。



粘土質の赤土

越前西部地域 絶滅危惧ⅠA アベサンショウウオとは？



絶滅危惧ⅠA

「種の保存法」の規定で保護されている。



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



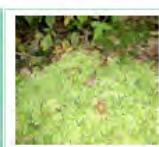
ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)



ハシタカ
Falco japonicus (Linn.)

環境要素	手入れ	生育・生息目標とする生物
■林	○雑木林の下刈、間伐 カブトムシやクワガタなどの林の昆虫が生息する環境をつくる。 ○除きり 田んぼ沿いの林を奥行き数m程度整備する（獣害防止と電線周辺の除草剤散布を避ける）。	カブトムシ クワガタ等甲虫 オオムラサキ アベサンショウウオ成体
■湧水周辺	○周辺の草刈 ○深さ 5~10 センチ程度浅い止水（水たまり）を整備する落ち葉はある程度残す。 ○ため池や水田に繋がる水路を確保する。	アベサンショウウオ オオミズゴケ、 モウセンゴケ サギソウ、サワガニ、ムカシヤンマ等
■ため池	○周辺の草刈り ○数年一度の泥抜き ○漏水がある場合は補修 ○外来種の除去 ○ため池がない場合は、湧水に近い休耕田などを深堀りする。（50~60cm）	・筑紫の小さなため池 ミクリ、コウホネ、ヒツジグサ、ゲンゴロウ、メダカ、クロスジギンヤンマ、モリアオガエル、トノサマガエル ・比較的大きなため池 ドジョウ、ギンナ、メダカ、ギンヤンマ、オオアイトトンボ、モリアオガエル、ツチガエル等
○休耕田	○湛水・湿地化 耕耘機で 2,3 年に一度耕起し、水をいれ湿地状態を保つ。周辺の田んぼと耕起する年をずらすことにより、草丈の多様な環境を作る。	ハッチョウトンボ、イトトンボ、メダカ、ドジョウ、マツモムシ、タイコウチ、ゲンゴロウ類
○水路・承水路	○土水路の整備 ○ぬるめを作る	メダカ、ドジョウ、カワニナ、ドブシメ、タイコウチ、マツモムシ、ゲンゴロウ類、オニヤンマ
○現行水田	○減農薬、減化学肥料 ○冬水・春水田んぼ（田植え 1 ヶ月前から湛水） ○米ぬか等有機資材投入	コノノトリ メダカ、フナ、ドジョウ、イモリ、タイコウチ、ゲンゴロウ類、マツモムシ等水生昆虫

津黒いきものふれあいの里トンボMAP



⑪ギンヤンマ

開放水面があり岸边にヨシ等挺水植物が繁茂する池沼、水田。雄は腹部第1・2節が白色。



⑫クロスジギンヤンマ

樹林に囲まれたやや暗い閉鎖的な水域を好む。胸部に黒い2本の筋、腹部に青斑。



①ミヤマカワトンボ

山地の溪流や周囲に樹木が茂った清流。大型で赤褐色の翅、先端近くに暗褐色の帯。長い足。



②アサヒナカワトンボ

源流から上流部の樹林に隣接し植物が繁茂した河川。翅は有色と無色型がある。



⑩サラサヤンマ

低山地の湿地林、草が茂り落ち葉が積もった湿地。湿土中に産卵。黄緑色の複雑な模様。



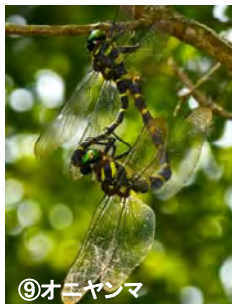
③ニホンカワトンボ

植物の繁茂する、開けた明るい清流。翅は橙色と無色型。体は金緑色だが雄は成熟すると粉を吹き白色に見える。



④ホソミオツネトンボ

低山地の挺水植物の多い池沼・湿地。夏季は山腹に移動。成虫で越冬し春は青色、冬は梢のような褐色になる。



⑨オニヤンマ

砂泥底の小川、湿地、周辺の林。小川の上を往復飛翔してハトローする。黒と黄の縞、目はエメラルドグリーン。



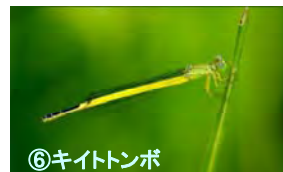
⑧シオカラトンボ

明るく開けた水面を好む、耕作中の田んぼ周辺の代表種。成熟した雄は白粉を吹く。雌は麦稈色。



⑦ヨツボシトンボ

ヨシなど背の高い挺水植物の繁茂した池沼・湿地。黄褐色の体、翅の真ん中と後翅の付け根に斑。



⑥キイトンボ

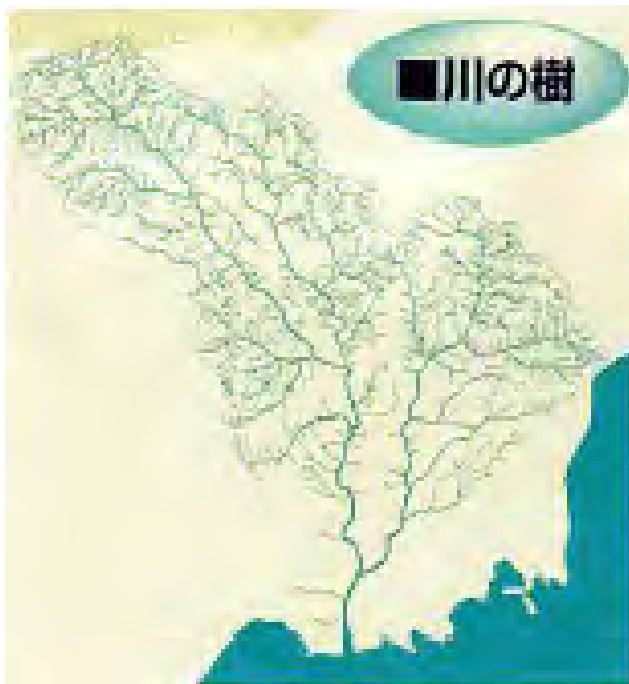
背の低い挺水植物が繁茂した浅い池沼、休耕田、湿地。黄緑～鮮やかな黄色。雄は先端に黒斑。



⑤クロイトンボ

水生植物が繁茂し開放水面のある池沼。黒々として先端の青斑が目立つ。雄は成熟すると胸部に粉を吹く。

河川、水路、水辺の保全活動



福井県越前市 水辺の生きものの調査の様子



干潟、海辺の保全活動



4月 April

5月 May

苗の移植
タネから大切に育てた苗を、紙粘土と竹串を使って横浜市金沢区の海辺に移植します。

6月 June

花枝の採取
みんなで協力してアマモ場から花枝を一本一本採取します。

7月 July

タネの選別
水槽内で成熟させたタネを一粒一粒手作業で選別します。子どもたちはスノーケリングや磯の観察会を体験できます。

8月 August

9月 September

10月 October

海の環境学習会
クイズをしたり工作したりしながらアマモ場や海の環境についてみんなで楽しく学びます。

11月 November

タネまき
播種シートとコロイダルシリカという2つの方法で海底にタネをまきます。

12月 December

横浜・海の森つくりフォーラム
アマモ場再生の取り組みや成果を発表しています。地元の小学生も環境への取り組みを元気に発表してくれます。

春

花枝がのびて花が咲き、タネができます。

夏

土の中でだんだんとタネが成熟します。

秋

秋になって水温が下がると発芽が始まります。

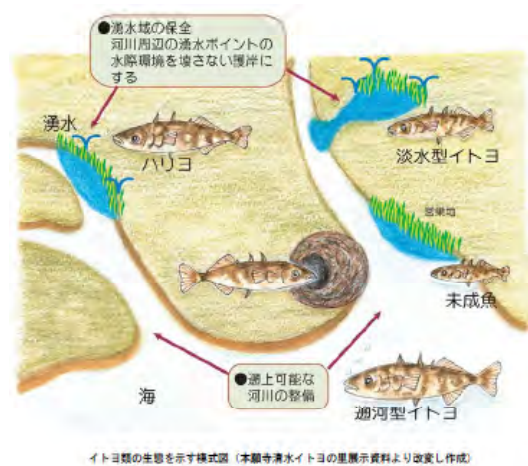
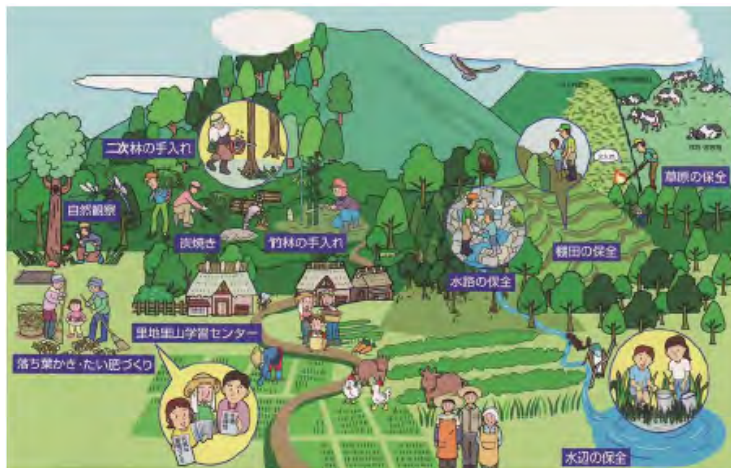
冬

光をあびてすくすくと育ちます。

←アオリイカの卵です。アマモに守られるように産卵されていました。

アマモ場の中なら → タツノオトシゴも安心して生活できます。

森里川海をつなぐ自然再生活動



多様な主体の役割と連携の仕方

6-1 多様な主体の連携の意義

6-2 企業・事業者による取り組み事例

6-3 学校による取り組み事例

6-4 大学・研究機関による取り組み事例

6-5 さまざまな役割を担うコーディネーター

学校による取り組み事例

- ・ テーマ： お台場の海で海苔を育てよう
- ・ 5学年の『総合的な学習の時間』に位置づけ
- ・ 連携を図り教材開発
- ・ 専門家による実技指導
- ・ 東京都、国土交通省などの公的機関の予算面や事業面での支援



お台場環境教育推進協議会

お台場環境教育推進協議会は、お台場学園港陽小学校が実施するお台場の海を活用した環境教育の諸活動を支援する目的で平成17年度に設立された協議会です。当初は6機関・団体でスタートしましたが、現在は9機関・団体により運営されています。

協議会の主な事業は、港陽小学校4年生児童による海苔（アマモ）の育成と5年生児童による海苔育成の授業の活動支援と各種手続きにおける連絡・調整です。アマモや海苔の育成には専門的な技術や知識が不可欠です。また、お台場海浜公園は都立の公園のため、利用にあたっては様々な管理機関や利用者との連絡・調整も不可欠です。学校だけでは対応が困難な技術・知識の提供や連絡・調整を協議会が担っています。

平成22年度に港陽小・中学校が小中一貫教育校お台場学園となり、小学校での海に関わる多様な体験を基に、中学校では東京大学等と連携し、水質やハゼの産卵等の調査を進めています。

お台場で推進されている地域に根差した環境教育の各機関・団体相互の連携の仕組みや活動の成果が、全国の様々な地域に活かされることを期待しています。



お台場なごさ通信

お台場での活動は、ブログでご覧いただけます。URL: <http://odaiba-env.net/>

お台場での環境活動

（島の鳥再発見ツアー）

国土交通省では、年に一度（8月）、島の鳥にて清掃活動や野鳥等の自然観察教室を実施しています。



（東京ベイ・クリーンアップ大作戦）

公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団では、年3回、お台場海浜公園の清掃活動を実施しています。毎年1回は、ダイバーの協力により海底の清掃も行っています。



港区

大学・研究機関による取り組み事例

- 大学が研究の中核を担う取り組み

コウノトリ:兵庫県立大学、トキ:新潟大学、他

- 博士論文、修論・卒論での学生の取り組み

北海道黒松内町:東京大学鷺谷研究室、秦野市名古屋地区:東海大学、農大短期大学部・・



さまざまな役割を担うコーディネーター

コーディネーターにもとめられる素養・機能

- 目的: 明確なビジョン、又は、わかりやすい計画
- 進め方: 動機づくり、一歩、組織化、展開
- 事務局: 会議資料の作成、会議録の作成と配布
- 事業費: 予算の作成と予算確保能力
- 拠点と場: 誰にでも参加できる場とシステム
- 先導役: 率先した生態系復元活動
- 成果と展開: 活動の多面的展開～段階的発展

国内事例検索

検索の使い方に関する解説を掲載

絞り込み易く、7つの検索軸を設置

1. 対象地域 ・都道府県
2. 生態系タイプ分類
 - ・ミズナラ林 ・コナラ林(東日本) ・コナラ林(西日本)
 - ・アカマツ林 ・シイカシ萌芽林 ・その他(北海道)渡島半島以北
3. 地域区分
 - ・大都市近郊 ・都市周辺 ・中山間地 ・奥山周辺
4. 環境タイプ
 - ・二次林 ・草地 ・水田 ・畑 ・小川、水路 ・ため池
 - ・池沼、湿地 ・社寺林、屋敷林 ・人工林 ・その他
5. 主な活動主体
 - ・地元集落等 ・NPO、企業等 ・行政 ・連携組織 ・その他
6. アプローチと手法

アプローチ: 4つの「取組の目的」と2つの「取組の進め方」の計6項目に分類
手 法: 各アプローチ項目をさらに細分化し、計12項目の手法に分類
7. フリーワード検索

検索したい単語を入力。複数のワードによる検索も可能。

5

海外事例検索

検索の使い方に関する解説を掲載

絞り込み易く、4つの検索軸を設置

1. 対象地域
 - ・アジア ・アフリカ ・ヨーロッパ ・北アメリカ ・ラテンアメリカ
2. 国名
 - ・韓国 ・ケニア ・スペイン ・カナダ ・エクアドル ・オーストラリア
 - 等(現在、全38カ国)
3. 主な活動主体
 - ・地元集落等 ・NPO、企業等 ・行政 ・連携組織 ・その他
4. 取組対象
 - ・樹林地 ・草地 ・田、畑 ・小川、水路 ・湿地 ・ため池、池沼
 - ・その他

検索結果	名称	対象地域/国	取組主体
地味おこしを目的とする山	韓国(仁川)郡山(仁川)郡山(仁川)郡山	アジア/韓国	地元集落等
都市化が進む山	韓国(仁川)郡山(仁川)郡山(仁川)郡山	アジア/韓国	地元集落等
中国(雲南)省(雲南)省(雲南)省(雲南)省	中国(雲南)省(雲南)省(雲南)省(雲南)省	アジア/中国	地元集落等
中国(雲南)省(雲南)省(雲南)省(雲南)省	中国(雲南)省(雲南)省(雲南)省(雲南)省	アジア/中国	地元集落等



6

